

キタノカワニナ

「森ボラ通信」49号(2006年6月号)4頁に澄川の沢でカワニナ発見の記事がでています。発見のきっかけは沢水に浸けていたシイタケ栽培用のホダ木を引き上げた際に数匹がくっついてあがってきました。同年9月8日には酒井さんも再確認しました(右写真)。カワニナが棲んでいればその天敵ホタルも棲んでいるに違いないので、同年7月末にホタルを確認しました。これがきっかけとなって恒例行事7月末日のホタル観察会として楽しむことになりました。ホタルを観るには夜の闇の森に入らなければなりません。火入れから密閉まで12時間近くかかる炭焼きを毎年1回は泊り込みでやっていたので、それをホタルの出現時期にあわせて行えば一挙両得ということで、2007年の7月末「炭焼&ホタル観察会」が発足しました。以後毎年ホタルを楽しみ2012年の観察でもホタルが確認されました。澄川のホタルはヘイケボタルで光はゲンジボタルには敵いませんがそれはそれで情緒はあります。



カワニナは淡水に棲む細長い巻貝で、長さは2~3cmくらい、北半球温帯域に広く分布しているようです。日本に棲む種類は46種類もあり、その内16種類が琵琶湖固有種で30種類が琵琶湖以外の地域に棲んでいるようです。澄川のカワニナはキタノカワニナだろうと思われます。

澄川の沢、右精進川を当協内部規定として立ち入り禁止とし保護することになりました。沢を渡る必要があるので、カワニナやホタルの幼虫の生息環境を踏み荒らすことを避けて木橋をかけることにし、早速2006年11月には助成金をうけて同時に3橋を建設しました。さらに2010年11月には最上流に1橋を追加し4橋となりましたが、内1橋は老朽化したので使用を止めています。その場所は軽トラックが沢を渡ることが可能な唯一の地点なので近々改修架設することになるでしょう。

九州での高野少年は終戦直後の食料難時代には田んぼのタニシや水路のカワニナを採取してきて茹でて食べたこともあります。佃煮として売られていた記憶も蘇ります。

